

## 昭和大学医学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーを達成するため、体系的で、段階的・横断的なカリキュラムを全学年にわたって構築しています。臨床実習は本学附属病院とともに、学外医療施設でも実施します。カリキュラム（教育課程）策定方針を以下に列挙します。

### 1. プロフェッショナリズム

医師としての責任感、倫理観、ヒューマニズムを醸成するための授業科目（医療現場での体験実習を含む）を1年次から各学年で開講する。医療安全に関わる授業科目は2年次から、法規・規範を理解するための授業科目は3年次に開講する。授業で培った責任感と倫理観をもって人間性豊かな医療を実践する態度を身につけるため、4年次後期から医療現場で診療参加型臨床実習を行う。

知識に関する評価は筆記・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

### 2. コミュニケーション能力

1年次は寮生活、初年次体験実習（在宅・福祉施設訪問等を含む）、学部連携科目などを通して多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築する。2年次からは、患者・家族、医療スタッフなどと適切に対応し、判りやすい言葉と適切な態度で情報の収集・提供する能力を修得するために、コミュニケーションに関わる演習、PBLチュートリアルなどの参加型学修を行う。3年次後期からは、模擬患者とのロールプレイ実習を行なう。4年次後期から6年次前期まで、附属病院の病棟や外来で患者や家族との面談および他学部学生、多職種との連携を実践する多様な臨床実習を行う。

これらの評価は、レポート、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

### 3. 患者中心のチーム医療

体系的な学部連携カリキュラムを全学年で構築する。1年次はチーム医療の基本を理解し、学生間の連携・協力の基盤を身に付けるために、寮生活のもと、多様な学部連携科目を開講する。2～4年次は、多職種間の相互理解と連携・協力をもとに、チーム医療を実施するシミュレーションとして、段階的に構成された学部連携PBLチュートリアルを各学年で開講する。4年次末～6年次には、患者中心のチーム医療を、医療現場で実践する能力を身に付けるため、附属病院・地域医療施設での臨床実習を行う。

チーム医療に求められる知識、技能、態度の評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。

#### 4. 専門的実践能力

基礎医学（体の構造や機能、疾患の要因などの学修）は、1年後期から4年までの講義と実習で学修する。臨床医学（疾患の診断と治療）の基本的知識は、2年後期から4年前期まで、体系的に講義科目で学修する。また、4年後期～6年次には、臨床実習と並行し、総合的な医療知識を講義科目でも学修する。臨床医療に必要な基本的技能は、3年後期および4年前期に、スキルスラボや附属病院などで、シミュレータを用いるなど実践的な環境で学修する。3年次の「臨床医学演習」では、グループ討議によるPBLチュートリアルで、基本的な疾患の臨床推論と検査・治療計画の立案のプロセスを学修する。臨床実習は、4年後期には内科（9週）、外科（6週）、小児科（2週）、産婦人科（2週）の計19週、5年次にはそれ以外の12診療科（各2週）で計24週、大学付属の7病院をローテーションして、ベッドサイドで診療チームの一員として参加して学修する。5年次12月から6年次6月まで、さらに臨床能力を深めるため選択的診療参加型臨床実習を4週間ずつ7期にわたり実施する。なお、本実習では海外を含む学外医療機関を選択できる。

これらの評価には、筆記試験、口頭試験、実習での態度、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、知識レベルについては2～4学年の定期試験、4学年の共用試験CBT、4～6学年の総合試験、および卒業試験により総括的評価を行う。医師としての基本的技能・態度は4年次の共用試験OSCE、6年次の臨床実習終了時OSCEで評価する。

#### 5. 社会的貢献

社会医学として、衛生、公衆衛生については、2年後期、3年前期に、法医学については3年前期、4年前期に、それぞれの講義と実習で学修する。地域医療実習は、1年次の初年次体験実習、3年次の地域医療実習として地域の医療機関での見学実習を行う。5年次には3年次と同じ地域医療機関で改めて実習を行ない成長過程を確認する機会とする。6年次には在宅医療を学修する学部連携地域医療実習を選択できる。

これらの評価には、筆記試験、口頭試験、実習での態度、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、知識レベルについては各学年の定期試験、総合試験、卒業試験により総括的評価を行う。

#### 6. 自己研鑽

PBLチュートリアル、基礎及び臨床実習で、論理的、批判的に問題を解決する能力を身につけるとともに、省察と適切なフィードバックによって生涯にわたる自己研鑽の土台を作る。また、3・4年次の医学英語で英文論文から最新の知識を得る能力を修得する。国際的視野を身に付けるため、全学年で海外の連携大学や医療機関に一定期間、語学研修と臨床実習を選択することができる。希望者は学部学生のうちから大学院のカリキュラムを選択し、高度な医学知識、研究技法などを学修することができる。

これらの評価には、実地試験、レポート、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長

の過程も合わせて評価する。

## 7. アイデンティティ

全学年にわたって実施する4学部連携教育やアイデンティティ教育により、本学の伝統や特長を認識し、昭和大学卒業生としてのプライドを持って、医療に貢献する医師を養成する。

評価は口頭での確認やポートフォリオ等を用い、成長の過程も合わせて評価する。